

## 1. プロジェクト名

日本語：群島と大洋の思想史——太平洋のグローバル・ヒストリー

英語：A Global Intellectual History of the Pacific

## 2. 代表者名

馬路智仁

## 3. (初発の) プロジェクト概要

太平洋とは、大海と数多の島々から成る地理的実体である一方、その空間に関わる人々のイメージや認識、ヴィジョンが蓄積された知的、観念的な構築物でもある。「太平洋」とは一体誰が語り、どのように意味づけられてきたのか。「太平洋」は誰のための構想であって、その構想にはいかなる意図が込められていたのか。我々は今日、「太平洋」をめぐるどのようなイメージや認識、意味の体系を継承しているのか。本プロジェクトは、政治・軍事・経済・文化・アイデンティティに関わるこれらの問いに対し、思想史（インテレクチュアル・ヒストリー）の観点から応答する。

本プロジェクトの主な分析対象は、近現代において、太平洋沿岸諸国の人々、太平洋を横断する人々、(オセアニアなど) 太平洋島嶼に住む人々が執筆してきた著作物（本・論文・雑誌・パンフレット・小説・旅行記・物語など）である。それらに込められた多彩な「太平洋」認識やヴィジョン、構想を抽出し、あるいは発見することが本プロジェクトの狙いである。このとき「抽出」とは表象の分析を指し、「発見」とは当該著作物の執筆者の自覚にかかわらず、我々研究者がそこに見出し、読み込むことのできる「太平洋」認識やヴィジョンの演繹を意味する。また本プロジェクトは、たとえば近代日本における「南洋」など、太平洋の一区域をめぐる認識やヴィジョン、構想の探求も含む。したがって我々が試みるのは、日本思想史であり、アメリカ思想史であり、オーストラリア・ニュージーランド思想史であり、島々の思想史であり、この空間をめぐる植民地主義の歴史に鑑みると、ヨーロッパ思想史でもあり、ポストコロニアル思想研究でもある。さらに、別々の地域で生まれた複数の「太平洋」構想がどのように関連し、相互作用してきたかの分析を行うことで、そのいずれにも十分に還元し得ない、独自の「太平洋思想史 (Pacific Intellectual History)」の試みとなろう。

大西洋や地中海を対象とした海をめぐる歴史・思想史的研究において従来なされてきたように、本プロジェクトにおいても陸 (=外縁) と陸を横断・架橋する知的交錯に着目する。環太平洋沿岸は西洋、アジア、亜西洋 (オーストラリア、NZ といった旧移住植民地)、先住民文化など多様な政治・経済文化圏によって独特に構成されているため、大陸横断的な視角に重要な意義がある。一方で、他の海域と比較した場合の太平洋の独自性は、無数ともいえる島々が中心部に広がっている点にあり、こうした島々はこの海域を、単に大陸から大陸へ移動する空間以上のものたらしめている。それゆえ本プロジェクトは、沿岸の陸地と中央の島々の関係にも光を当てる。この点について我々は、特にミクロネシアやポリネシアといった太平洋深奥の島嶼部に着目し、これらをめぐる「客体的」構想と「主体的」構想の相互作用という視角を提示する。

「客体的」構想とは、陸 (=外縁) から島嶼部へアプローチし、これを「海の中の微小な島々」と見なす構想のことである。この構想は、島嶼部を経済的・文化的・政治的に矮小化し、支配や搾取の対象として、あるいは存在無きものとして扱う傾向がある（端的には、近代植民地主義者の言説や太平洋核実験の背後にある認識）。「主体的」構想とは、そのような矮小化に抗して、太平洋という海の内側から新たなアイデンティティを創出しようとする構想、すなわち「島々に満ちた海」として海や島々それ自体の主体性の確立を試みる構想のことである（例として、フィジーで活躍した文化人類学者エペリ・ハウオフアの「新しいオセアニア」）。本プロジェクトでは、とりわけ 20 世紀以降を対象とする際、このような「陸から海へ／海それ自体」、あるいは「政治・経済大国にとっての内側／内側の島々それ自体」という対立構想が交錯し、相互作用する有り様に「太平洋」という思想空間の特徴を見出し、かかる相互作用を通じた「太平洋」の共創造を分析する。

2021 年 5 月 31 日